

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩といたします。再開を午後1時ちょうどといたします。

午前11時52分休憩

-----

午後1時00分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。

さきに通告をしておりました、将来の対馬はどのような島を目指すのかについて、市長並びに教育長にお伺いをいたします。

対馬市では、平成27年度に、10年計画で第2次対馬市総合計画が策定され、事業が計画に基づき進められると思いますが、その中で4つの将来像が掲げられております。まず1つ目が「ひとづくり」、若者でにぎわう希望の島、2つ目が「なりわいづくり」で地域経済が潤い続ける島、3つ目が「つながりづくり」で支え合いで自立した島、4つ目が「ふるさとづくり」で自然と暮らしが共存した島と掲げてあります。

その中で、最優先課題として14項目、具体的な施策として37項目が示されておりますが、その中から大きくは3点について、市長の考え方をお伺いをいたします。

1点目は「なりわいづくり」で観光客の誘致による活性化、具体的施策として、観光客への発信・PRの強化、観光客の受け入れ体制の整備、外国人観光客へのきめ細かな対応。

2点目は「つながりづくり」で島内外の移動手段を確保する、具体的施策として、島内の道路網の整備、島内の公共交通の利便性の向上、島外への交通アクセスの利便性の向上についてであります。市長も来年度の予算編成に取り組みられると思いますが、ただいま申し上げた具体的な施策がどのような取り組みをされているのか、また、現状で取り組み状況、今後の課題について伺います。

次に、3点目は教育長に伺います。総合計画の中で、「ふるさとづくり」で歴史・文化を未来に残すとありますが、具体的施策として、対馬固有の遺産や文化財の保存、活用についてであります。対馬固有の遺産や文化財の保存については、教育委員会として、当然、後世に残す施策に取り組みなければならないと思いますが、活用となると、市長部局との連携をとらなければならないと思います。どのような取り組みをされているのか、また、お船江の国指定に向けての状況、広場の整備計画、活用方法等、現状と今後の取り組みについて伺います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

「自立と循環の宝の島 対馬」を目指し、平成28年から37年までの10年間に取り組む道筋を示した第2次対馬市総合計画では、議員御質問の中にもありましたように、4つの将来像を掲げております。若者でにぎわう希望の島、地域経済が潤い続ける島、支え合いで自立した島、自然と暮らしが共存した島でございます。その中で、3つの項目に関し、その進捗状況や今後の課題に対する御質問がありましたのでお答えいたします。

まず初めに、将来像であります地域経済が潤い続ける島を実現するための最優先課題の一つとして、観光客の誘致による活性化という項目についてお答えいたします。

この項目では、具体的な施策として、一つ、観光客への発信・PRの強化、二つ目といたしまして、観光客の受け入れ体制の整備、三つ目として、外国人観光客へのきめ細かな対応を掲げております。

観光客への発信・PRの強化では、観光パンフレットやポスター、ホームページ、観光物産展の開催、さらには福岡事務所や釜山事務所の活動により、自然や歴史、食、特産品など対馬の魅力を国内外に向けPRをしているところでございます。32年度の目標値として、国内外からの観光客数を50万人と設定しておりますが、韓国人観光客の急激な増加により、平成29年度時点で60万4,616人となっております。

観光客の受け入れ体制の整備では、宿泊施設の誘致やWi-Fi案内板の整備、観光ガイドの養成、各種イベント開催による受け入れ体制整備に取り組んでいるところでございます。目標項目に対する実績といたしましては、民泊の登録件数は目標を50件としており、現在31件の登録で、修学旅行の受け入れ件数は目標2校に対し、2校、117人となっております。

外国人観光客へのきめ細やかな対応では、外国語表記によるパンフレットや案内板の整備、宿泊施設誘致、映像等によるマナー向上に向けた啓発活動を行っており、外国人客に向けた受け入れ体制の整備に取り組んでいるところでございます。目標項目として、外国人観光客を30万人としておりますが、平成29年度末時点で35万8,337人と、既に目標値を上回っているところでございます。

このように、3つの施策においては順調に取り組み、またその成果として、平成32年度の目標値を既に超えているものもございますが、さらに上を目指していく上において、総合計画に掲げております目標項目以外の部分の課題も出てきております。急激に増加する外国人観光客に対するターミナル施設や宿泊、飲食施設の不足、グレードアップなどの受け入れ体制の整備、レンタカーや自転車による事故の増加、また、国内客誘致においては、窓口の一本化や体験メニューの構築、インターネットによる施設紹介や予約対応などへの要望も高まってきております。

市といたしましても、これらの課題に対応するための施策に取り組んでいるところではございますが、市の事業だけではなく、民間事業者の皆様の活力をお借りしなければならない部分もご

ございますので、有人国境離島法を初めとするさまざまな制度を活用して、民と官が一体となり、あるいはそれぞれの立場で取り組んでいかなければならないと思っていますところでございます。

○議長（小川 廣康君） いいかな、移動手段。

○市長（比田勝尚喜君） 申しわけございません。次に、島内外の移動手段の確保についてでございますが、4つの将来像、いずれの挑戦においても、島内外の移動手段の確保はなくてはならない重要な発展のための要素と考えております。

10月のANAダイヤ改正により、それまで就航していたボーイング737の500型機が姿を消したことで、対馬の空からジェットが消える事態となっております。今までの4便体制から、プロペラ機のみ5便体制となったことで提供座席数が片道30席減少しており、曜日と時期によっては予約がとりにくい状況であると聞いております。後継のジェット機については、現在の1,900メートル滑走路では、ANAには運航可能機材がなく、Q400機により運航となっている次第であります。

先月の6日には、議長、副議長にも同行していただいて、中村知事に対し、7項目からなる要望書を提出いたしました。中でも、道路整備の促進、観光客受け入れのための基盤整備とあわせ、対馬空港施設の整備については詳細に説明し、滑走路延長についても要望しております。今後も、対馬の空にジェット機の就航について、長崎県初め国土交通省、関係機関、国会議員等に対して要望活動を強化したいと考えております。

続きまして、海路におきましては、ジェットフォイルの更新が課題であると思っております。事業者からは、高速船では双胴船や三胴船もあるが、日本の海、特に日本海では現行のジェットフォイルが最適であるとお聞きしております。先日の県に対する要望の際も、中村知事をお願いしておりますが、壱岐市や五島市、他の地域とともに連携し、議会の協力もいただきながら国に対し新たな補助スキームの構築を求め、要望してまいりたいと思っております。

また、本年7月に運航がかなったビートルの混乗でございますが、利用が低調に推移しております。地元住民が乗っていただいて、初めて継続できる航路でありますので、地元住民に乗っていただくよう周知に努め、島外からの誘客についても努力したいと思います。加えまして、全航路において島民の運賃の低減化だけではなく、帰省客や交流人口拡大のためにも、島外客の運賃低減化に向け、議会と一緒に国、県への粘り強い要望を続けたいと思います。

続きまして、島内の移動手段であります路線バス、市営バスやスクールバス混乗、乗り合いタクシー、コミュニティーバスについて、今後、少子高齢化の影響が色濃くなっております。交通空白地帯がふえないよう新たな地域公共交通の形を模索したいと考えております。そのような中、昨年度より路線バスの乗降客がふえ、一定の収益改善が見られます。これは、韓国人観光客の乗降に起因するところが大きいと思われませんが、1日乗車券やフリーパスポートによる効果も浸透

した結果と思われまます。

議員御指摘のように、一部縦貫線では、釜山巖原間の比田勝港への急な寄港地変更に起因し、途中のバス停から乗られる対馬市民、特に高齢者の皆様には御迷惑をおかけしていることは承知しております。対馬市としましては、寄港地の変更を行おうとする国際航路事業者において、代替バス等の移動手段の確保について対応すべきと考え、3カ月に1度、定期的で開催される比田勝港・巖原港国際航路運航調整対策会議において、国際航路運行事業者各社に代替交通手段の確保についてお願いをしているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 船越議員の御質問にお答えします。

第2次対馬市総合計画のうち、歴史・文化を未来に残すについてであります。文化財の保存と活用の全般的なことについて御答弁をさせていただきます。

多くの貴重な文化財を適正に保存し、後世に伝えることは非常に重要であり、また、その価値を多くの人に知ってもらい、観光資源や学習資源として活用していくことは、今に生きる私たちに課せられた重大な使命であると思っております。本市におきましても、史跡や有形、無形の文化財、天然記念物の保存、活用に努力を重ねているところであります。

史跡関係では、特別史跡金田城跡が、昨年度実施した築造1350年記念事業や、日本城郭協会による続100名城へ認定されたことの効果もあり、島外から多くの方に訪れていただくようになりました。

対馬藩主宗家墓所等の巖原市街地所在史跡群については、今年度、第1期の整備を終了することに合わせ、11月に「巖原の史跡からまちづくりを考える」と題してシンポジウムを開催し、多くの市民に御参加いただいたところです。

そのほか、天然記念物関係では、現在、対州馬の天然記念物指定に向け、関係者に協議をお願いをしているところです。

また、民俗文化財関係では、昨年度、盆踊り調査報告書を刊行し、現在、国指定を目指して文化庁と協議を行っているところです。

文化財の周知、広報については、市報掲載や現地説明会の開催、学校の社会科見学、総合学習での資料館等の展示解説等、いろいろな機会を捉えて情報発信に努めているところです。ただ、本市は、県内でも最も市域が広く、文化財全体を適正に管理し、十分に活用できているかと言えば、必ずしもそうとは言えない状況があります。また、無住の寺社も多く、防犯、防災の面でも心配な点も多いと感じております。

そのほか、総合計画にも取り組むべき課題として記されているとおり、専門性を有する職員の

確保も重要な課題であります。情報発信の面でも、対馬の文化財の持つ魅力をさらに力強く伝えていく工夫が必要であろうと思っております。特に、平成32年度開館予定の新しい博物館との緊密な連携と相互協力は、文化財行政を進めていく上で欠かせないと認識をしております。

そのほか、標識や案内板の整備、更新も進めていくほか、今回の補正予算に計上しております文化財の多言語解説システムの導入により、外国人観光客の満足度向上、提供する情報のサービス向上を図ってまいりたいと思っております。課題は多く抱えておりますが、いろいろなところと連携しながら、また、平成29年に策定した対馬市教育振興基本計画に基づき、文化財の保存継承に、そして対馬市の活性化に寄与するような文化財の活用に努めてまいりたいと思っております。

次に、県指定史跡対馬藩お船江跡についてでございますが、現在、国指定に向け、意見具申の準備を進めているところです。来週の火曜日、12月18日に開催予定の第2回対馬藩お船江跡総合保全検討委員会には、文化庁から担当調査官をお招きして、具申について指導を受けることとしております。現在の予定としては、来年度中の意見具申書提出を目標にしております。

指定地对岸の広場については、未指定地ながら史跡との関係性や久田地区の地域づくり計画との関連性から、史跡と一体となった整備を予定しております。整備の内容については、市関係各課と協議を進めているところであります。また、先行取得が必要と思われる入り口部の用地購入につきましては、租税特別措置法の関係で、現在、税務署と協議をしているところであります。所有者との交渉を経て、条件が整い次第購入に向けて事務を進めたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） まず、観光客の誘致による活性化について、市長にお伺いしますが、新聞報道によりますと、韓国航路数最高は対馬釜山という新聞報道がありました。九州運輸局が16日に発表したところによりますと、博多、下関、対馬と韓国釜山を結ぶフェリーと高速船の2018年度上半期、4月から9月までです。輸送実績を発表しました。利用者数は3港で68万3,190人で過去最高だそうです。日本人の利用客は、その中でも6万6,307人、韓国人利用客は60万5,460人、うち対馬釜山航路は42万5,233人と出ております。

この上半期でこれだけの人が入ったということになりますと、これは民間がしたわけじゃなし、九州運輸局が調査をした数字だと思うんです。上半期で42万人入ってきているということになってきますと、それから半年ありますから、この時期は4月から9月までという気候がいいですから、だからたくさん入ってきたと思うんです。ところが、9月以降は海も荒れますし天候も悪いから、少なく来るとは思うんですが、それにしても月に3万人ずつ来ても18万人です。そうしますと、60万人になりますね。そうしますと、今現在でももう目標に掲げておる50万人

は突破するわけです。

もう一つ言いますと、これも新聞報道ですが、佐賀と釜山便定期便が就航しておりますね。LCCの格安航空運賃です。ティーウェイという航空会社が佐賀釜山間を結ぶ定期便を就航すると発表しました。12月23日から週4往復、所要時間は1時間、月・水・金・日です。片道が2,500円。11月23日から12月15日までは就航記念価格として片道が1,500円、こういうことです。

それから、次の日はまた新聞が出ているんですが、大分と釜山、務安を結ぶ2路線の定期便を就航、同じ航空会社です。これも12月22日からともに週3往復、所要時間は大分釜山が1時間、大分務安間が1時間50分、火・木・土と入るんですが、これもいずれも片道2,500円。11月23日から12月15日までの就航記念価格としては1,500円、片道で。こういう状況の中で、対馬市というのは、やはり安穩としとるんじゃないかなと私思うんです。旧態依然とした感じで、黙っとってでも来てくれるというそういう観念があるんじゃないかなと思うんです。こういう数字を聞いて、市長はどう思われますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに今現在、これまでこの比田勝港が外国人の出入港に関しては1番、2番が博多港、そして3番が巖原港というように聞いておりました。これが、この上半期で、これ出入国で42万5,000人ということでございますから、片道にしますと約21万ちょっとの人間が既に入っているのかなというふうに思っております。

それと、今、船越議員のほうからもいただきましたこのLCC航空の関係で、大分務安あたりも開設されて、就航記念価格ということになるかとは思うんですけども、1,500円とか2,500円というような価格であれば、言われるように、これは安穩としておられないなという気持ちでおります。何らかのやっぱり対策を今後打っていかなくちゃならないというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） この2,500円、通常は2,500円で運航するそうです。ところが就航記念で1,500円にするらしいんです。こうなりますと、対馬に来るより大分に行ったほうが安いんです。往復5,000円ですから。船の運賃と変わりませんよね。だから、そういうふうなことがもう始まってきているんです。こうなってきますと、安穩としとくわけにいかんでしょ。市長も一生懸命になって対馬空港の延長、100メートル延長ですか、延長してLCCが入るぐらいの滑走路にしたいということで、国へも私たちも一緒に行きましたが、やはり長崎県のほうにもこの前、議長・副議長で行ってきたということなんですけども、早急にこれは滑走路の延長というのはやらないかんと思うんです。1回行ったからもういいよということじゃな

しに、もう来んでいいよと、何回も何回も行って、もうわかったと、もう来んでいいというぐらいにしてでも、これはどうしてもやっとなかないかん事業だと私は思うんです。

今、こういう時代にもう入っていますから、船じゃないです、飛行機なんです。飛行機でこれだけ安い運賃で来られたら、これは船ではとてもじゃないです。そりゃ何百人と乗って来ますよ、船には。しかし、それだけでは済む問題じゃないと私は思いますが。もう少しそこら辺を力を入れてやるべきだと思いますし、もう一つは、私が前日、会派代表質問で言いましたように、国際交流課というのはやはり立ち上げて、向こうの状況というのは的確に捉えて、対馬がどう今からやっていくんだということは、そこの課でしっかりと把握した中で対馬の未来というのを、そういう外国人観光客の受け入れというのは考えていく必要があると思うんです。いかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、我々もこの対馬空港の滑走路延長については、本当に真剣に市民の声を県そしてまた国へ上げていきたいということで、これからも一生懸命頑張ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

そしてまた、先ほど、会派代表質問の関連質問の中でも国際交流課を新設してはどうかという提言を受けておりましたが、このことにつきましても、いろいろと内部でまた検討をさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 機構改革というのはですね、市長。市長が決断すればできるんです。皆さんとよく話して、今のようなこのような状況の中で、自分がかじ取りをしとるんですから、どうしてそれに対応するかと先手先手を打っていくような施策をやらにやいかんと思うんです。それには、片手間で、今、観光商工部の課長が月に1回か2回か行くぐらいです。あとは、交流協会に今釜山の事務所の方が2名でやっとなるんですが、これぐらいのことで本当にいいんですかと。本当に真剣に取り組んでいくのであれば、韓国人観光客を受け入れるというそういう気持ちがあるのであれば、現状のままではもう干されてしまうと私は思うんです。だから、それに対応するべくそういう課をつくって、積極的に取り組んでいっていただきたいとこのように思います。よろしくをお願いします。

それから、先ほど言いました滑走路の延長問題、これも国境離島特別委員会もありますし、その中でやっぱり議員団と一緒にあってどんどん行かにやいかんと思うんです。もう来んでいいぞ、わかったと、わかったけんもう来んでいいぞと、ならいつつくってくれるんですかちゅうて言うぐらいにいかんと、なかなか先に移れませんよ、これは。今までずっと何回も何回も言っとなるんですよ、ところが、現実にはなっていない。それを詰めていって、それぐらいの気迫でやっ

ていただきたいなど。そうしないと対馬はおくれます。よろしくお願いします。

それから、次が発信・PRで観光客受け入れ体制の整備、それからアクセスです。循環バスが通っていますね。この問題もちよっと私も週に4便、5便ですか、行っただいととは思いますが、循環バスが5便、特別循環バスというのが週に4回、これは5カ所ぐらいしかとまりませんので、早いんです。ところが、先ほど市長が言いましたように、急遽、韓国人観光客が入ったときには、とてもじゃない、もう乗れんぐらいあるんです。交通会社に聞いてみましたら、やはり住民の方たちを何とか、病院や何か通う人たちがおりますので、その人たちは最低限確保しないといかんというような気持ちでやっ取りますと、韓国人が満タンになったときでも二、三席はあけて、病院に通う人は優先的に乗せるというような対応も今のところしております。貨物が多いもんですから、なかなか横に置いたりするもんですから乗れんわけです。それを、今、後ろの座席を5席あるんですが、そこに全部積んで、それで走っておるということなんです。やっぱりそこまでせんででも、人間が5人減るわけやから貨物をできるようなところを一つ確保できんのかということで相談行きましたら、今、運輸局のほうに何かそういう申請をしっかりとせにゃいかんと、改造せにゃいかんから。だからそれを今から申請しようと思うておりますと、何とかそこら辺ができるようなことも努力して頑張りますというような話でした。

やはり、そういうところも一つ一つ、韓国人に限らず対馬島民の人たちもそれを利用するわけですから、そこら辺がしっかりできていくような方策を、もう少し交通会社とも話していただいて、やはり今は循環バスというのは大体、平均、今の時期ですと十五、六人ぐらいしか乗らんそうです。多いときには集中するんです。上半期ですから4月から9月、そこら辺の気候がいいときには物すごい乗ってくる、だけど今からはだんだん少なくなる。だからトータルして考えないかんと思うんですが、やっぱり一時期だろうと思うんです、これも。島民の方からも何とかしてくれというような苦情の電話も我々のところにも入ってきますが、なかなかこれも今言いよったような状況がありますので、御理解をしていただかないかんのかなと思います。

それから、混乗の問題、これはやはり比田勝、上方面の人たちは大変喜んどるんですが、要は不安もいっぱいなんです。この前、報告会をしまして、いろんな話がその中でも出ました。やっぱり比田勝から乗船しても、帰りがないから、巖原回りで返ってこないかんという不便さもあるんです。そこら辺を解消するというのは、今のとこちょっと難しい面があるんですが、やはりその連携した循環バスが、向こうから1便で帰ってくれば昼に着きますから、循環バスで帰るということもできるでしょう。しかしながら2便で帰ってきたときには、もう帰るバスがないです。そういう不便さもありますので、そこら辺はどういうふうにすればいいのかということも配慮が必要だろうと思うんです、上地区の人たちの。だから、やっぱり自分たちも心配やと、人間が乗ってくればいいが、乗ってくれんやったときにはまたこれ廃止になるんじゃないかなとそ



ういう不安も持っておられます。だから、それはそういうことのないように、やっぱりみんなで力を合わせてやっていかないかのじゃないですかという話もしました。

それから、報告会のときの話をちょっとしますが、韓国人の方がとにかく汚すと、だからそれは行政のほうで少し指導はできんかというような話もありました。それから、ごみが海にずっと流れてくると、取っても取ってもまた流れてくると。だからこれは韓国のほうに行政のほうから言うてくれんかという話もありました。いろんな地域によってそういうふうな問題も抱えております。だからやはり行政のほうも上対馬のほうの行政区がありますので、そこら辺から聞いた中で、行政としてどうするべきかということもしっかり取り組んでいただきたいなと思います。

それから、2点目に行きますが、移動手段、道路網の整備については、先ほど市長も言われましたように、県のほうにも行かれて、国県道の整備については要望してこられたということですが、これだけバスが上から下まで来る、東沿岸通るんです、特に東が悪い。これを早急にやっぱり何とかしてもらわんと、バスの事故が今ないからいいんです。狭いから、もしこれがバス事故でもあったら、これは大変なことになりますよ。それもおまけに、日本人ならではないんですが、日本人でも外国人でも事故が起こったときには大変な問題になりますし、国際問題になる可能性もありますので、やはりこれはどうしても早急な対応が必要だろうと思いますので、より一層の要望活動を続けていただきたい、このように思います。

それから、やっぱりここの中で1つ市長にお聞きをしますが、要はこのきめ細かな対応といますかサービスといますか、おもてなしといますか、こういうことはやはり行政の基本となるものは何でしょう、お答えください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 急にきめ細かな対応ということで、私も一瞬戸惑っておりますけども、恐らく、私といたしましては、お客様に接する対応の気持ちだろうと思います。要は、今、いろんなアンケートの中でも韓国の方に対して少しさげすんでいるのではないかというような、そういったアンケート結果も出ておりますので、決してそういうことがないように、やはり本当に気持ちを持って対応してまいるようにしていきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 私が思うのは、基本は市民だと思うんです。行政の基本であるのは市民だと。おもてなしの基本は何でしょう、もう1つ聞きます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） やはり、おもてなしの心というのは、やはり相手に喜んでいただくところがおもてなしでしょうから、これについても、やはり真心と申しますか、接する態度じゃないかなというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 私はこのおもてなしというのは笑顔だと思うんです、笑顔。接するときに笑顔やったら和やかになりますよね。これはおもてなしの一つの一番最低限のことだろうと、私はそういうふうに思います。

それで、ちょっと話ずれますけども、対馬全島に183の区がありますね。いろいろな要望書が上がってきとるけども、積み残しのところが私は多いと思うんです。近年、レンタカーを借りていろんな地域に入っていく観光客の方というのは多いと思うんです。その地域に入ったときに、その地域の人たちが笑顔で接するのがおもてなしだと、私はそう思うんです。ところが、行政に言うとするけども、街灯をつけてくれと言うとするけどもつけてくれん、あるいは側溝を直してくれと、これもできん。区長さんたちは大変です。行政のかわりに区長さんがそれを肩がわりしてやりよるわけですから。だから、区長さんは一生懸命やっていただいとるけども、やっぱりその中でそういうもんがあるんです。そうしますと、観光客が入っていても、そういう気持ちで行政のほうがしっかきやってくれとるという気持ちがあれば、笑顔が出ると思うんです。

「どこから来られましたか」いう言葉もかける余裕があると思うんです。私はそれが出てくると思うんですが、しかし、それができていないのでは、なかなかそういう気持ちもならんのかな。何を言うても行政は何もしてくれんよと、こういうふうなつっけんだらりとしたことになるんじゃないかなと思うんです。

もう少しそれをしっかきやってやるということは、私は必要だろうと思うんですが、財政的に厳しいからやれんというのは一つあると思うんです。例えば、1つの区に100万円ずつ、例えば維持補修費にかけるからということになってきますと、1億8,300万円です。例えば一律にやっても1億8,300万円。市の今、財政調整基金というのは23億ぐらい残つとると思うんです。

それから、減債基金、これも40億ぐらいありますね、44億8,000万ぐらい。やはりこれを足しますと63億ぐらいあるんです。63億5,000万ぐらいあります。これは副市長が一番詳しいと思いますが、しかし、この決算の監査委員の報告書を見ますと、対馬市の中期財政計画というのは35億以上に保つときなさいということが書いてあります。今そこには63億5,471万円、減債基金と財政調整基金であります。28億ぐらい上回つとるんです。これ、1億8,300万使ってもまだ余ります。やはりそれぐらいに地域の人たちにそういうことを細かくしてやることによって、対馬市全体がよくなってくると私は思います。1億8,300万かけてそれがなるのであれば安いものじゃないかと思うんです。確かに1年じゃできません。何年かかかりますが、しかしそれは、それぐらいのことは行政として私は考えるべきだと思うんです。

もう1つ言いますが、23年度の決算を見ますと、328億9,539万円で、その中で63億が自主財源、依存財源が265億です。いかに国に頼っとるかということが一目瞭然だと思わんですが、それで見ますと、対馬市の市債残高というのは439億です、29年度末で640億あったやつが、合併をして14年ですよ、そうしますとその間に200億減っているんです、200億。合併当初のときに返済計画というのをつくったと思うんです。それに基づいて、今、返していっと思わんですが、14年間で200億返しているということは、10億ではききませんよね。だからそれぐらいに返していく、無理して返さん、商売人というのは借りた金は、借りたその期限内にそれだけ払うていけばいいんです。早く返さにかいかんというもんじゃないと思わんです。そういう金に早く早くすくうていかんででも、そういう金をためていてそういう地域にやってやるんです。そういうことも必要じゃないかなと思わんですが、簡潔に市長、6分しか残っておりません。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに、今、各地区から多面にわたって要望が出ております。ただ、その要望の中のもうできませんとかいうことはできるだけ返さないようにしております。財源の件で結構待ってもらえることがあるんですけど、財源の許す限り優先順位をつけながらやりますということで、もうしばらく待ってくださいというような、そういう答弁をしているということでございます。

それと、財源等をまだ使って、まだまだそれに充当してはどうかというようなことだというふうに思わすけども、できるだけそういうふうにはしていきたいと思わんですが、今、国のほうでも地方自治体のほうが財源をちょっとため込み過ぎているというようなことで、今後、交付税を減らしていくような、どうもそういう方向づけがされているようなところもございすので、そういうところと総合的にいろいろと勘案しながら、できることは地域の事業また改修のために充当したいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 今、実質公債費比率も去年は9.1%でしたか、今年度は29年度は7.8に下がるとるんです。確かに財政状況というのは良好なほうにいつとるんです。安全なんです。その安全ばかりをやっとってでも私は先に進まないと思わんです。それで、市長は一生懸命アクセルを踏んで、こうやって行こう行こうしたりするのに、サイドブレーキを引かれとったら先に移らんわけです。誰かサイドブレーキを引く人間がおるんじゃないですか。余り引き過ぎると煙が出ますから、そういうことも含めて、先ほど言いましたように、対馬市の基本は市民です。市民の方たちが、ああ対馬市においてよかったと、私たち地域も見捨ててないいうぐらいのことをするのが、市長、あなたの仕事なんです。それをしっかり捉えて、優先順位をつけ

て少しずつやっていますよ、それでは間に合いませんよ。だから1億8,000万、ぼんと出しなさい。区長さんたちに、きなさい、100万円ずつつけるから、その地域をどうかしてやってくれ、そのかわりあなたたちも小さいところは自分たちでもやってくれというぐらいの気持ちをしっかりやって、アクセルを踏んでください、もう少し。

もう時間がないので、教育長が待っておりますので、済いません、もう時間がないので要望だけしときます。

今、お船江の件もいろいろ話聞きました。税務署とのいろいろな話もしとりますと言うが、これも2年前からこれを財政面でいろいろ検討してやりますと言いますが、一向に進んでいないんです。いつまでかかるんですか、税務署というのは。やはりそういうところは、その土地の人がもういいと、しびれを切らしてもう韓国に売りますよと言われたらどうしますか。やっぱりそこら辺はもう少し早く出られるようなことを考えてやらんと、しびれ切らしてもう売ってしまつた後からいやそうじゃなかったんですよ言うたってどうにもなりませんよ。そういうことも含めた中で、今、市長が言われますように財政が厳しいと言いますが、中身を見てみるとそんなことないんです。大丈夫ですよ、対馬市は。やらだけです。サイドブレーキ引く人がおるからなかなか先移らんわけ。だから、そこら辺も含めた中で、もう少しお船江全体の計画をつくっていただいとって、来年度ぐらいには国指定に持っていこうという話もされていまして、だから文化庁のほうからも来て検討するということですから、そこら辺もしっかりしていただいて、その地域が発展していくように、また文化財をそういう史跡周辺整備をしっかりとした中で、後世に残していただきたいと思うんです。

もう一つは、看板とかそういうのを今年度補正予算でつくりますとか、そういう話もございましたが、看板だけをつくったって、中身が草ぼうぼうじゃどうにもなりません。そこら辺の周辺整備もやっぱりしっかり考えた中で、文化それから観光と密着したやり方をひとつ検討してみてください。よろしく願いをしときます。

これで終わります。済いません、ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、船越洋一君の質問が終わりました。

○議長（小川 廣康君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後1時51分散会